まちめぐり資源の解説　西側

④ 部谷山古墳　へややまこふん

6世紀(500年代)頃と推定される横穴式石室です。1m四方ほどの入り口を入ると、高さ2.3m、幅1.7m、奥行き4mの玄室(ひつぎを納める石室)があります。盗掘のためか、出土品はありません。武田山、火山の山麓には、他にも同様の古墳や貝塚があり、早くから人々が定着していたことがうかがえます。

⑤ 立専寺　りゅうせんじ

銀山城主武田氏の香華院(祈願所)で、元は「武将山金龍院」といいました。武田氏の衰退により廃寺になりましたが、天文4年(1535年)、僧正春によって再興、「武将山立専寺」と改称されました。本堂は明治34年(1901年)の再建ですが、山門は古い様式で16世紀(1500年代)のものと伝えられています。

この寺には、武田山付近の古墳などから出土した弥生時代後期とみられる土器、古墳時代の須恵器、鉄製の直刀などが保存されています。

また、境内のクロマツ(高さ9.4m、幹周り2.7m)は、平成17年(2005年)に広島市保存樹(*)の指定を受けています。

本堂

山門

広島市保存樹(*)
地域の自然景観の形成に寄与している、健全で、かつ、樹容が美観上特に優れている樹木や樹林を、保存樹・保存樹林に指定・公表するとともに、所有者(管理者)の保存に対して支援を行う制度。

⑥ 真幡社　まはたしゃ

「黄幡社」とも呼び、旧東山本村の村社でした。前身は平山八幡神社(⑧参照)の末社と考えられ、幟などの社紋に毛利家の家紋(※)が使われています。江戸時代後期、比治山(南区)の黄幡社に祭るため御神体が移し去られましたが、これを嘆いた村民が播磨国(兵庫県)から新たに「猿田彦命」を勧請し、今に至るといわれています。境内のイチョウの大木は山本地区のシンボルの一つで、随所からその姿を見ることができます。

⑦ 専念寺　せんねんじ

元は禅宗でしたが、元亀3年(1572年)、僧了心が浄土真宗に改宗し、「清徳山正専寺」と改められました。さらに大正元年(1912年)、西本願寺派に転派し「専念寺」と改称しています。本殿は明治35年(1902年)に改築されたものです。

⑧ 平山八幡神社　ひらやまはちまんじんじゃ

天文12年(1543年)、周防国(山口県)の戦国武将大内義隆によって社殿が造営されたと棟札に記されています。また、永禄3年(1560年)、毛利元就が嫡男隆元の武運長久と国家安泰を祈願して、現在の宝殿(本殿)を新築したとも記されています。そのため、蟇股(梁などの上で上部を支える部材)や屋根の棟木などに毛利家の家紋(※)が施されています。

※毛利家の家紋

立専寺のクロマツ

まちめぐり憩いの空間づくり事業について

安佐南区では、区の魅力を高める「魅力づくり事業」の一つとして、「まちめぐり憩いの空間づくり事業」（平成１３年度～平成２０年度）を実施し、区民の皆さんと一緒に自然、歴史、まちなみ、施設、住民活動、祭りなど、地域の特徴ある資源を生かしたポイント（空間）や、これらを結ぶルートづくりを行い、平成２０年度までに全１８ルートが完成しました。

このマップは、平成１７年度に開催された「まちめぐり憩いの空間ルート研究会」において、祇園・山本地区に在住の方を含む区民メンバーが調査・検討した結果をまとめたものです。

山本へは広島交通バス「西山本行」「山本東亜ハイツ行」「春日野行」「広島経済大学行」があり、広島駅、紙屋町等で乗車できます。

※運行時刻、所要時間、経由地などは、運行会社にご確認ください。

あさみなみ散策マップ　～祇園・山本ルート～
発　　行：広島市安佐南区役所　区政振興課　TEL:082-831-4926
製作協力：まちめぐり憩いの空間ルート研究会
発行年月：平成18年(2006年)　3月　初版
　　平成21年(2009年)12月　改訂

祇園・山本ルートとその周辺について

祇園・山本

武田山

「祇園」は安神社の古称「祇園社」に由来し、「山本」は文字通り山の麓を表しています。

太田川の河口デルタが発達する以前は広島湾に面していた地域で、武田山・火山の山麓には古くから人々が定住し、古墳などを今に残しています。平安時代には舟運・海運の中継地として倉敷地(貴族や寺社などの私有地「荘園」から運ばれる物資の保管場所)が数多く置かれ、市が立ち、人や物資が集まってきました。さらに鎌倉時代末期、安芸国守護の武田氏が武田山に銀山城を築き、政治・経済・交通の中心地となりました。

その後、広島城築城により中心的な機能は失われましたが、江戸時代の祇園は町屋が建ち並ぶ街道筋の集落として賑わい、山本などは米や野菜、桑(養蚕)、い草などを栽培する農村であると、当時の地誌『芸藩通誌』に記録されています。

明治22年(1889年)の市町村制施行で、祇園村、山本村となり、昭和18年(1943年)、山本村は、原村、長束村とともに祇園町に合併しました。戦後は広島市の発展・拡大とともに市街化が進み、人口も急増していきます。昭和47年(1972年)、広島市に編入、昭和55年(1980年)の政令指定都市移行を受けて、安佐南区の一部となりました。

武田氏と銀山城

伝武田信宗着用兜鉢(呉武田学園蔵)

武田氏は平安時代中期の武将、源義光(別名、新羅三郎)を祖とする東国武士で、甲斐国(山梨県)の武田村に移り住んだことから「武田」姓を名乗るようになりました。

朝廷と鎌倉幕府が争った承久の乱(1221年)で、鎌倉方に付き手柄をたてた信光は安芸国守護に任命されます。信光は山本村に守護所を設けますが、自らは甲斐に残り代理を派遣して二国を統治しました。

銀山城は、文永11年(1274年)の元寇(蒙古襲来)で安芸国を拠点に活躍した信時の孫、信宗の築城とされていますが、南北朝の争乱期を迎えて安芸国に常駐するようになった氏信が事実上初代城主と考えられています。こうして安芸武田氏は代々銀山城を根拠地に近隣の豪族を従えてきました。

しかし戦国時代に入ると周防(山口県)の大内氏、出雲(島根県)の尼子氏らが台頭し、中国地方の覇権を争って安芸国にも進出してきます。永正14年(1517年)、九代城主元繁が初陣の毛利元就に敗れ戦死、勢力が衰えてきた天文10年(1541年)、元就の巧みな戦略の前に堅固な要塞もついに落城し、十一代城主信実を最後に安芸武田氏は滅亡したといわれ、300年余りにわたった武田氏の安芸国支配は終わりました。

注）古くは「金山城」と記しますが、一般的な「銀山城」を用いています。

この印刷物は再生紙を使用しています

まちめぐり資源の解説　東側

① 歓喜寺・大年神社　かんきじ・おおとししじんじゃ

神仏混交の名残として歓喜寺と大年神社が同じ境内にあります。

歓喜寺：元は「慈神院」と呼ばれ、祇園の安神社付近にありましたが、天正年間(1573～1591年)、現在の場所に移されました。天正11年(1583年)には、広島城主毛利輝元が銅鐘を鋳造し、寄付したと伝えられています。

また、室町時代の京都五山の学僧、竜湫周沢(画号「蚪沢」)の筆による『絹本著色不動明王画像』が収められていました。広島県の重要文化財に指定され、広島市郷土資料館(南区)に保管されています。

大年神社（左）・歓喜寺（右）

絹本著色
不動明王画像

大年神社：勧請年は不明ですが、この地には武田氏の出城があり、米庫を設けて兵糧を貯蔵していた場所だったことから農業祖神である大年神を祭ったと伝えられています。米庫は銀山城落城の際に焼け落ちていますが、明治の頃まで土中から焼けた米が掘り出されたといわれています。

② 武田一族の墓（伝承）　たけだいちぞくのはか

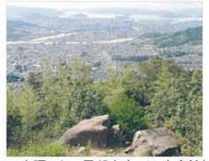
小石を集めて築いた小山が三ヶ所あり、かつては五輪塔もあったといわれています。江戸時代にまとめられた地誌『芸藩通誌』には、この地域に銀山城十代城主武田光和の墓があり、桜の木などが目印であると記されていたことから、これがその墓ではないかといわれています。

③ 武田山　たけだやま

祇園、安古市にまたがるこの山は、広島市の中心部などからも眺めることができる地域のシンボルの一つです。

祇園や山本以外にも大町や相田など複数の登山ルートがあります。祇園からの登山道入り口には武田山憩の森があり、ベンチ、トイレ、駐車場などが整備されています。憩の森から標高410.9mの武田山山頂までは約50分程と比較的登りやすい山であることから、家族連れや年配の登山者も多く見かけられます。登山道沿いには、巨石や石積などの銀山城の遺構が点在し、海抜250m以上は広島県の史跡の指定を受けています。広島市街地を見渡せる眺望点も随所にあります。

また、尾根づたいに山本の火山、長束の宗箇山、さらには西区の大茶臼山、鈴が峰などへ縦走することもできます。



山頂からの展望（デルタ・広島湾）

館跡

主な参考文献
祇園町誌／郷土の歴史探訪(安佐南区公民館ネットワーク事業)／ふるさとひろしま(ひろしま郷土史研究会)／広島市の文化財第50集　古路・古道調査報告(広島市教育委員会他)／そのほか、社寺の現地解説文など

マップと資源の解説の見方
地図面の右側を折り返すと、地図の左半分に掲載された資源の解説を読むことができます。逆に左側を折り返すと地図の右半分に掲載された資源の解説を読むことができます。